

栗山町

0339 山本太郎

1.概要

1.1 地名

「栗山」という語源は、アイヌ語の「ヤム・ニ・ウシ」に由来し、「栗の木の繁茂しているところ」に起源する。

1.2 歴史

1888 年（明治 21 年）5 月 16 日宮城県角田藩士泉麟太郎氏が「夕張開墾起業組合」を設立 7 戸 24 人が阿野呂川左岸（角田）に入植。1890 年（明治 23 年）には「角田村」設置が告示され、1900 年（明治 33 年）角田村戸長役場が設置される。開田事業、二股炭礦開坑、奥地開発、栗山市街地区の商工振興などで、1900 年（明治 33 年）の角田村の戸口が 1,200 戸、5,000 人を突破。1902 年（明治 35 年）に二級町村制が施行され、自治体としての新生の第 1 歩を踏み出す。二級町村制を 5 年経験した角田村は、1907 年（明治 40 年）に一級町村に昇格する。昭和に入り、角田炭礦の発展とともに人口は 20,000 人を突破し、1949 年（昭和 24 年）に町制が施行され「栗山町」と改称、1963 年（昭和 38 年）には役場庁舎を角田から栗山へ移行している。

1.3 位置・地勢

栗山町は、道都札幌市や港湾苫小牧市、新千歳空港に約 1 時間の道央圏に位置し、北は屈足山系と東は夕張山系につづく緩やかな丘陵地帯で、夕張市と接する。南西を蛇行しながら流れる夕張川は、由仁町、長沼町との境界となる。北部はやや幅広く、西部より東部に斜めに長く延び、西部に傾斜している。南部にある 509m の雨霧山は本町の最高峰である。北部は 443m が高峰で美流渡との分水嶺を為している。地質は、第 3 紀層が東部、南部、北部を占め、西部は、沖積平野である。川は東部から西部へ流れ、夕張川にそそいでいる。夕張川は、夕張山地の水を集め、角田盆地の南東角より北西部に、斜めに流れて石狩平野に出て、本流石狩川にそそいでいる。

図 1 栗山の位置

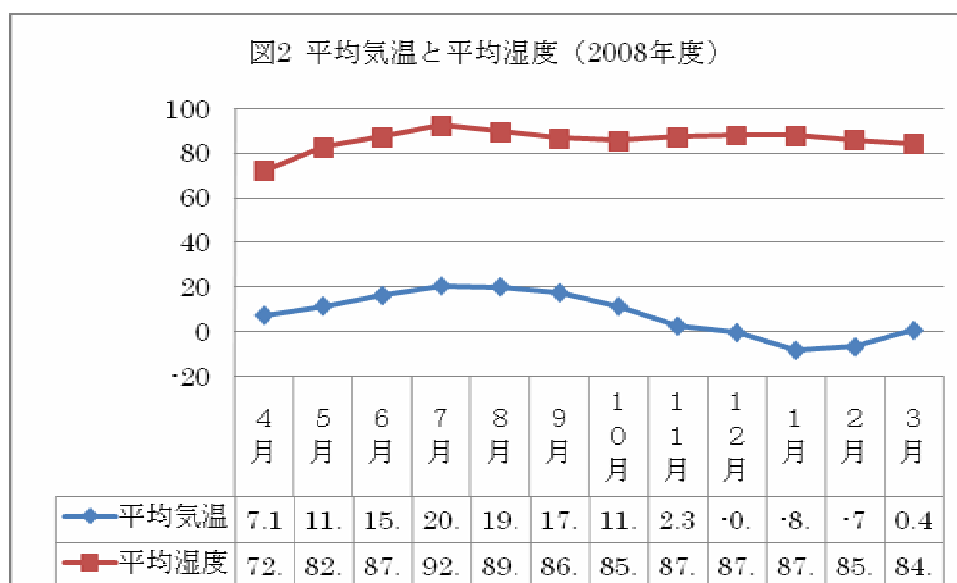


出典 クリポ HP

1.4 気象

栗山町の年平均気温は 7.4 度で最高気温 30.4 度、最低気温が -27.7 度である。また降雨量

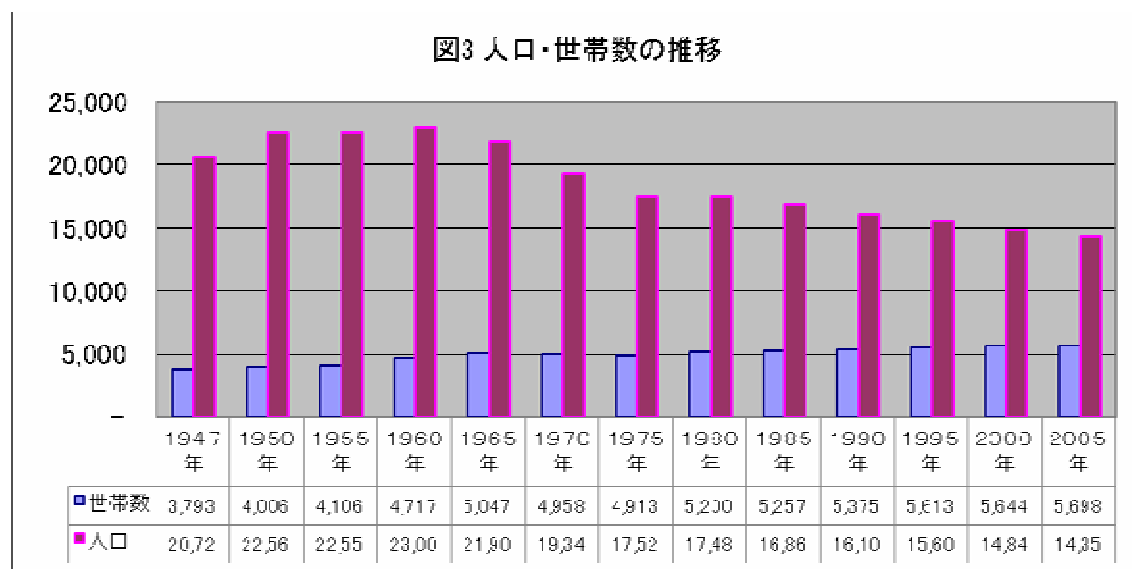
が 560mm、降雪量が 470cm（2008 年度）である。夏場と冬場の気温の高低差が大きい。年間を通して湿度が高いのが特徴だと思われる。



出典 栗山町役場 HP

2 人口

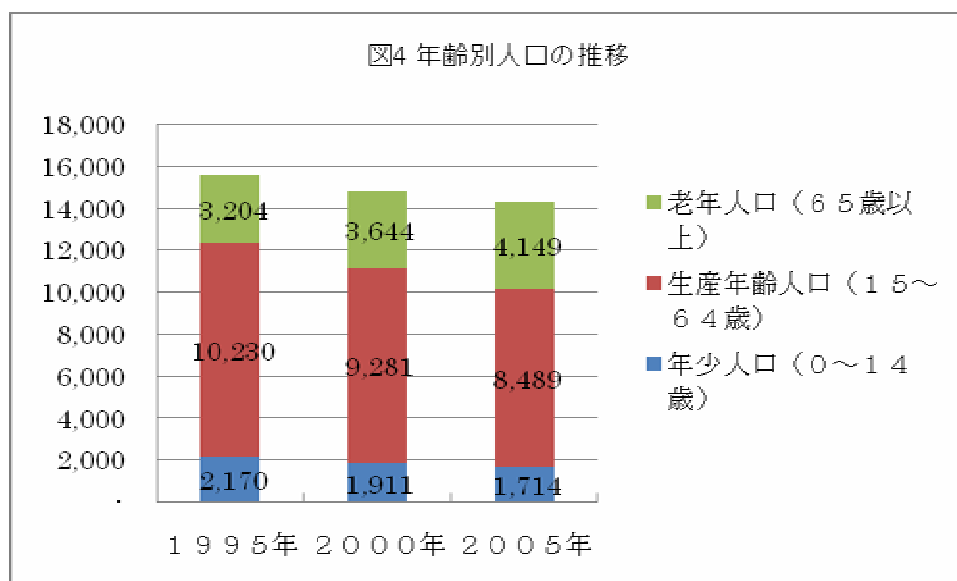
2.1 人口・世帯数の推移



出典 国勢調査

1960 年ころから人口は減少し続けているが、世帯数は微々ながらも増加していることから、一世帯数構成員が少なくなっていることがわかる。

2.2 年齢別人口の推移



出典 栗山町役場 HP

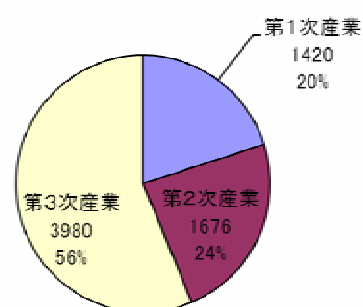
全体の人口が減少していく中で老年人口は増加している。これは高齢化しているということである。高齢社会が進行していく中、高齢者が抱える諸問題に適切に対処できる支援体制や、地域全体で支え合うネットワーク、高齢者の経験や知識を活かせる地域づくりが求められている。また図2と合わせて考えると世帯数・老年人口の増加で、老年人口の一人暮らし、または老夫婦での二人暮らしが増えているとも考えられる。

3 産業

3.1 産業別人口(2005年度)

第1次産業従事者の割合が北海道の中でも高いが、第1次産業の割合は減少しつつある。反対に第3次産業の割合は少しずつであるが伸びている。

図5 産業別人口数(2005年度)



出典 栗山町役場 HP

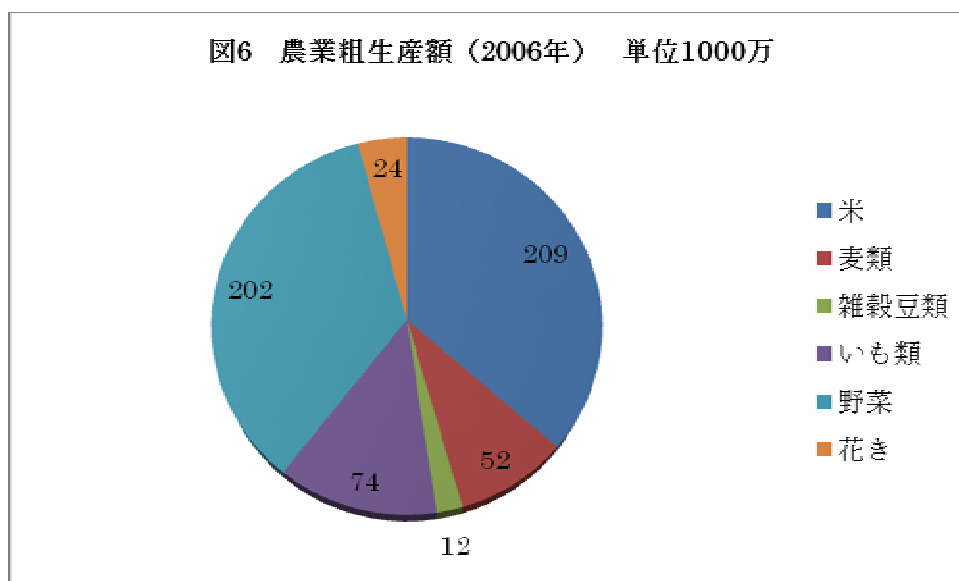
3.2 農業

3.2.1 農業課題

農家戸数の減少、高齢化にともなう担い手不足、農産物の価格低下など農業者にとっては益々厳しい状況にある。この中で安全・安心で信頼される食料の供給と食育、地産地消などによる地域農業、農産物への理解が不可欠であり、顔の見える農業の促進を図り、地域のブランド化を推進する必要がある。

3.2.2 農業特徴

農家数は581戸（専業264戸 兼業1種214戸 兼業2種49戸）であり、総農家人口は2233人である。経営耕地面積（販売農家）は5,325ha（田4,001ha、畑1,245ha、牧草専用地74ha）。農業粗生産額（2006年）は650千万円。転作面積（2009年）は1,734haであり、転作率は45.2%である。耕地面積が北海道の中でも大きく、下図からわかるように米と野菜の生産額が大きな割合を占める。主要農作物として米、メロン、小麦、大豆、玉ねぎがある。



出典 栗山町役場 HP

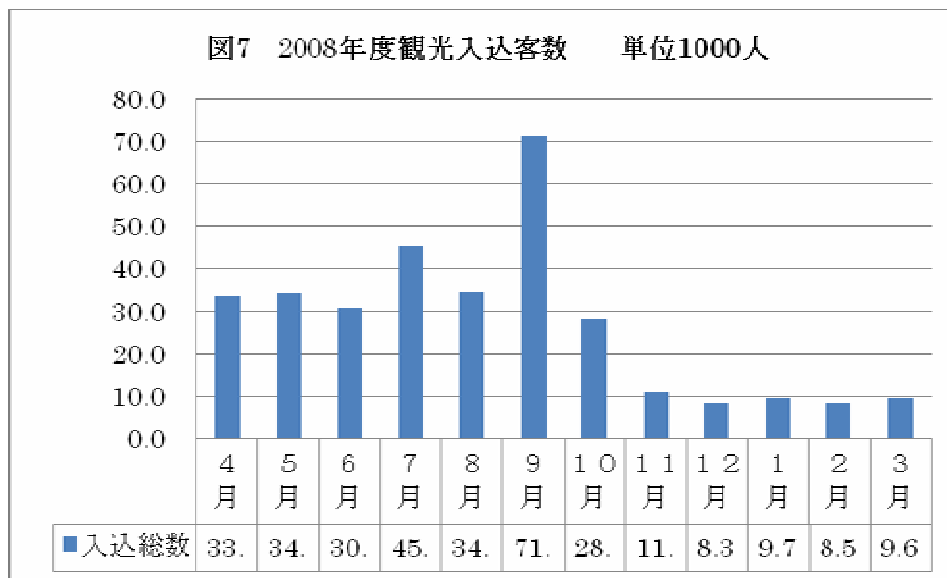
4.観光

4.1 観光課題

地理的条件に恵まれながら、観光客の多くは通過するにとどまる。豊かな自然環境を活かした学習・体験型観光や歴史的建造物の活用、短期・長期型滞在の住環境など、多様なニーズに対応する受け入れ体制の整備、広域的連携による魅力ある観光地づくりが求められる。また、インターネットなど様々なメディアを活用した観光情報の発信の強化が求められている。

4.2 観光入込客数

自然がよく見られるという理由から下期（10月から3月）より上期（4月から9月）のほうが観光入込総数が多い。特に9月に総数が多いのは「栗山天満宮例祭」が行われるためであると考えられる。下期、特に雪の降る冬の季節では上期の3分の1の入込客数となっている。



出典 北海道観光入込客数調査報告書

4.3 観光名所

4.3.1 自然の観光名所

国蝶オオムラサキを含む、多様な昆虫や鳥などが見られる「ファールルの森観察飼育舎」。春はコブシや桜、秋は紅葉が美しく水量が多いときは西の陽射しで虹が映し出される「不動の滝」。人と自然が共生する環境を残したいという町民有志の思いから 2001 年より、町内外から賛同者が集って小川や田畑などを復元しトンボやヘイケボタルなど、かつての生態系を徐々に取り戻し、四季折々の動植物が作り出す懐かしさを感じる田園風景が広がっている「ハサンベツ里山地区」などがある。

図8 自然の観光名所の写真

ファールルの森観察飼育舎

不動の滝

ハサンベツ里山地区



出典 クリボ HP

4.3.2 歴史・文化の観光名所

・「小林酒造・北の錦記念館」…1878 年、札幌市で造り酒屋として創業した北海道最古の蔵元「小林酒造」。初代小林米三郎(よねさぶろう)が“北海道で錦を飾ってやろう”という意気込みから、銘酒「北の錦」が誕生する。1901 年に拠点を移し、他メーカーに先駆

けて道産米を使用した酒造りにも着手、2008 年からは糖類などの添加物を完全廃止し北海道唯一の全商品、本醸造以上の酒造りを実現する。敷地内には、築 100 年を超える西洋建築のレンガ蔵や札幌軟石の石蔵が点在しており、一番蔵～六番蔵、資材庫、住宅など 13 棟が国の登録有形文化財として 2006 年に登録される。

・「栗山天満宮例大祭」…かつては各地の祭礼を回った露天商たちが最後に集っていた名残より。300 店を超える露店数は道内屈指。特産品が集う「くりやま味覚まつり」ほか、9 月 25 日には獅子舞や御神輿渡御、天満宮境内では子ども相撲が開催される。

図 9 歴史・文化の観光名所

小林酒造・北の錦記念館



栗山天満宮例大祭



出典 クリポ HP

参照 HP

- ・ 栗夢プラザ HP : <http://www.kurimu-plaza.com/html/008.html>
- ・ クリポ HP : <http://e-kuriyama.com/>
- ・ 栗山町役場 HP : <http://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/index.html>
- ・ 北海道庁 観光入込調査報告書 :
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop>